

現地報告・日光国立公園日光地区における 自然ガイド事情

宮地 信良

江戸川大学国立公園研究所客員研究員

1. はじめに

団体旅行の衰退、個人や小グループ旅行の増加、また見るだけの観光から体験・参加型観光への移り変わりを背景に、全国の国立公園でも自然ガイドによるガイドツアーが盛んになってきている。日光(日光市全域を指すのではなく、日光国立公園日光地区を指す。以下同)においては、古くから東照宮をはじめとする二社一寺を案内するガイド(地元では「殿堂案内人」とも呼ばれている)がいるが、自然の中を案内、解説、観察、体験させる自然ガイドの歴史はまだ新しい。

本稿では、古くから団体観光のメッカと言われてきた日光において、自然ガイドが生まれ、自然ガイドによるツアーが曲がりなりにも定着してきた経緯と自然ガイドを取り巻く現状、今後の課題等について報告したい。

2. 日光における自然ガイドの発展

■第1期 1980年代(官による「自然に親しむ運動」の時期)

昭和の時代には、環境庁(現環境省)を中心にして夏季に「自然に親しむ運動」が全国的に展開され、日光においても当時の環境庁国立公園管理事務所が、この期間に学識経験者などを講師に迎えて一般募集のハイキング行事を年数回程度行っていた。いわば役所による自然ガイド活動が始まった時期と言える。

■第2期 1990年代(ビジターセンターによるイベント・ガイドの創生期)

1991年(平成3年)には栃木県が大型のビジターセンターである栃木県立日光自然博物館(名称は「博物館」であるが博物館法による博物館ではない)を中禅寺温泉地内に開設した。日光自然博物館は、第3セクターの株式会社日光自然博物館が管理運営を行っているが、当初館内展示や映像、それにカウンターでの情報提供や館内解説は行われていたものの、野外でのガ

イド活動は時々のイベントの実施に留まっていた。

また1994年(平成6年)には環境省の日光湯元ビジターセンターが奥日光の湯元温泉にオープンした。開設の年は環境省の直轄管理であったが、翌1995年(平成7年)6月から自然公園美化管理財団(現自然公園財団)が管理運営を行うようになり、当初から年間100回を超える活動が行われるようになった。内訳は、館内でのスライドレクチャーや1時間程度の早朝、夕方の湯元温泉ガイドウォーク等のショートプログラム、自然観察ハイキング、スノーシューツアーやクロスカントリースキーツアー、クリーンハイキングや外来植物除去のボランティアプログラム、あるいは屋内でのわらじ作りやコンサート等、様々なイベントが行われた。ショートプログラムや室内プログラム、ボランティアプログラムは無料であったが、それ以外は安価ながらも有料であった。

その後、職員が経験を重ねて自然ガイドを行う能力が高まった頃を見計らって、随時貸切でガイドを行う常設のガイド事業を立ち上げた。申し込み者の希望に応じてオリジナルのコースを提案し、貸切で行う自然ガイドが誕生したわけである。ガイド料金は、日光に民間ガイド会社が無い当時としては「破格」の半日ガイド料10,000円、1日ガイド料15,000円であった。

■第3期 2000年代(民間、半官半民事業者によるガイド事業の勃興期)

知床、屋久島等自然ガイド業が盛んな地区からは大きく後れをとったが、2001年(平成13年)に日光に民間の自然ガイド会社(有)自然計画が設立され、日光でも業としての自然ガイドが始まった。同社は現在に至るまで募集型のガイドツアーと貸切ガイドの2本立てで通年ガイド業務を続けている。

日光は従来から首都圏の小学校の修学旅行や林間学校のメッカと言われ、戦場ヶ原等を中心にハイキングが盛んに行われていた。そして自然公園財団や(有)自然計画のガイドによる小中学生対象の「自然ガイド付きハイキング」の存在が次第に認知され、その需要は徐々に高まって行った。学校団体のガイド需要の伸び

をバックに、日光自然博物館や日光観光協会(現日光市観光協会)も貸切ガイド事業に参入した。自然公園財団、日光自然博物館、日光市観光協会(日光インタープリター倶楽部)の三者はいずれも行政機関のバックを持つ半官半民の事業者である。日光の自然ガイド事業は、ガイドの人数で言えばこれら半官半民事業者が主力になっていることが一つの特徴であり、これは他の地域にはあまり見られない状況であろう。またこれら半官半民事業者のガイドは、学校団体を主な対象に行っていることも特徴的である。このほか、いくつかのホテルやペンションが主としてその宿泊客を対象にガイド事業を行っている。

■第4期 2010年代(ガイドの連携と組織化の時期)

日光での自然ガイドの数が増えてきたことから、2011年(平成23年)、「日光自然ガイド連絡会」が設立された。この連絡会は、日光でガイドを業とする個人がネットワークを作り、情報交換や相互理解を深めること、協働で研修を行うこと等によりガイドの能力を高めることを主目的としている。この組織のユニークな点は、ガイドの組織化はまずはガイド個人同士のつながり、連携から始めるべきとの考えに基づいた組織であり、ガイド事業者の組織ではないことである。Face to faceのミーティングやメーリングリストによる情報交換や研修会が活発に行われており、例えば「歩道が通行不能になった」という情報が、メーリングリストを通じて即日のうちに全員に行き渡る等、実務的にもガイドにとって有益な組織になっている。現在は30名近くの自然ガイドが加入している。

また日光市は日光市観光推進協議会を設置し、その中にガイド部会が設けられていたが、当初は日光の自然ガイドとしては観光協会の組織である日光インタープリター倶楽部のみが参加していた。ガイド部会の構成員の多くは街あるきや歴史ガイドの分野、それにアウトドア関係の事業者であった。自然ガイドの存在が市には十分認知されていなかったということであろう。平成29年(2017年)になって、民間も含めた主な自然ガイド事業者や日光自然ガイド連絡会が構成メンバーとなった。ガイド部会では平成30年(2018年)秋には各分野のガイドツアーの存在を全体的にPRするためのイベント「あいに行く、NIKKO」を行う予定になっている。

3. 日光で自然ガイド事業が発展するための課題

自然ガイド事業が今後日光で発展するためには何が必要なのか、その課題を考えてみたい。日光は首都圏から約100キロと近い距離にあり、交通の便も良い。また変化に富んだすぐれた風景や動植物相を有し、更に奥日光は誰でもが気軽に歩ける平坦な地形が多いのも有利な条件である。このような社会的、自然的条件に恵まれた日光は、今後自然ガイド事業が大きく発展する可能性があると思われる。

1) 質が高く、魅力あるガイドを育てられるか?

「ガイドの仕事は資本もいらず体一つで稼げる」ということで、ガイド事業の先進地でも外部から多くの



写真：学校団体のガイドハイキング

ガイド希望者が入って来る。そこでの大きな課題は、ガイドの力量のばらつきが大きいことである。ガイドツアー中にお客が不愉快な思いをしたり、不満を持ったりしてしまえば、それがすぐに広がり、地区のガイド全体の評判を落としてしまう。「このガイドさんを頼んで良かった!」と言われるガイドを行うには、地域を熟知しており、ガイドとしての基本技術を持ち、お客の気持ちをくみ取れるサービス精神とガイドとしての矜持を持っていることが求められる。このようなガイドになるにはかなりの経験と勉強が必要である。そしてガイドの能力は自然の知識だけではない。話し方、自然体験の手法、顧客の希望に沿ったコースを企画する力、ツアーコンダクターとしての能力、予防安全や怪我したときの応急措置等多岐にわたる。事業者ごとにガイドの研修や教育を行うことが基本であるが、小さな組織では限界もある。日光ガイド連絡会でも研修に力を入れているが、大きなガイド組織が研修をオープンにしたり、市観光推進協議会ガイド部会でも研修を行うなど、ガイド全体の能力を高める仕組みを作っていくことが必要であろう。

2) ガイド事業者としての経営が確立できるか?

2. で日光のガイド事業の特徴として、半官半民事業者が主力になっていることに触れたが、これはガイド料金が安く設定されているということでもある。民間ガイド会社の場合、俗に「ガイド一人当たり一日4万円を稼ぐ必要がある」と言われている。先日、日光湯元ビジターセンターでイエローストーン国立公園のあるガイド事業者の講演があった。その会社のガイド料金は、1日7万円とのことであった(Adventure Yellowstone Inc.の例 ただしトランスポートेशヨ

ン、レンタル品、おやつ等を含む料金)。日光の場合、表1に示すように半官半民事業者のガイド料金は、現在も先に記した自然公園財団の当初設定した料金、半日ガイド料10,000円、1日ガイド料15,000円が基本であり、これは言わば「公共料金」レベルと言える。学校以外のガイド料はこれより高く設定している場合もあるが、これらの事業者は学校団体のガイドが多いことから、高いガイド料となるケースは比較的少ない。行政からの資金が入っていない民間会社がこのガイド料で経営を持続することは困難なのは明らかである。表2に示すように日光でも民間会社のガイド料はこれより高く設定されているが、それでも全国的な料金水準からみれば安くなっている。ガイド料収入が少なければ、事業者はプロガイドを目指す人を使う、あるいはリタイアした人を雇う等の方法をとることになる。一生の仕事としてのプロガイドを擁することができると経営を行うことが、地域のガイド事業発展に必要なのだが、日光ではまだこのようにはなっていないのが実情である。

3) 日光で自然ガイドツアーが行われていることが知られているか?

日光は二社一寺、華厳の滝、中禅寺湖をめぐる団体旅行地としての実績があり、一般的にこのイメージが強い。知床、屋久島、西表島のような自然ガイドツアーが日光でも行われているというイメージは一般的には無く、日光に行って自然ガイドを頼もうという動機がまだ弱いのである。しかし、日光は実際には自然風景だけではなく、巨木の森、湿原、野鳥、シカやサルといった動物やその痕跡、あるいは苔むした谷や冬の氷瀑など、自然ガイドが同行すれば見たり経験でき

表1 日光の主な自然ガイド事業者の貸切ガイド料金(ガイド1名当たり・税込)(単位:円)

| 事業者 | 種別/ グループの人数 | 半日料金 | 1日料金 | 備考 |
|--|--|--|--|---------------------------|
| (一財)自然公園財団 | | 10,000 | 15,000 | |
| (株)日光自然博物館 | 教育関連団体 一般 | 10,000 19,440 | 15,000 27,000 | 半日は4時間以内、1日は4時間超 |
| (一社)日光市観光協会・ 日光インタープリター 倶楽部(NIC) | 小・中学生 一般 | 10,000 15,000 | 15,000 20,000 | 半日は4時間以内、1日は4時間超 |
| (有)自然計画 | 1, 2名 3名以上 | 15,000 18,500 | 20,000 26,000 | 半日は午前または午後、1日は昼を またぐ場合 |
| (株)奥日光小西ホテル | 学校団体 一般2名 同3名 同4名 同5名 同6名~10名 | 19,440 15,000 21,000 26,000 27,500 30,000 | 27,000 24,000 33,000 40,000 45,000 50,000 | ホテル宿泊者は別料金(40%割引) |

表2 歩くガイドツアー料金例 — 募集ガイドツアー／貸切ガイドツアー — (単位:円)

| ガイド団体名 | 募集半日 ツアー | 募集1日 ツアー | 貸切半日 ツアー | 貸切1日 ツアー | コース例 |
|---------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--|
| (株)屋久島野外活動総合センター | 8,640 | 14,500 | 14,040 | 21,060 | 募集は白谷雲水峡コース等 |
| (株)屋久島ガイド協会 | 8,964 | 12,312 | | | 半日は白谷雲水峡／ 1日は雲水峡+ヤクスギランドコース |
| (屋久島) オーセン | | 14,000 | | 24,900 | 募集は白谷雲水峡コース等 |
| NPO法人知床ナチュラルリスト協会 | 5,100 | 13,000 | 15,500 | 26,000 | 募集半日は知床五湖／ 募集1日は五湖+フレベの滝コース |
| (軽井沢・星野リゾート) ピッキオ | 4,500 | | 12,500 | | 募集は秘密のフラワーウォーク／ 貸切は記念日のネイチャーツアー |
| 八丈島自然ガイドサービス「しいのき」 | 5,500 | 10,000 | | | 半日は唐沼・硫黄沼／ 1日は三原山・八丈富士コース |
| (一財)自然公園財団日光支部 | | 2,500 | 5,000 | 7,500 | 募集1日はイオリ滝コース |
| (株)日光自然博物館 | 500 | 3,500 | 9,720 | 13,500 | 募集半日は戦場ヶ原花ハイキング。 募集1日は中禅寺湖南岸トレッキング。 |
| (一社)日光市観光協会・日光インタープリター倶楽部 | | | 7,500 | 10,000 | |
| (有)自然計画 | 5,000 | 7,500 | 7,500 | 10,000 | 募集半日は日光自然散策& Teatime / 1日は西ノ湖~カクレ滝 |
| (株)奥日光小西ホテル | 5,400 | 8,640 | 8,100 | 12,960 | ホテル宿泊者は別料金(40%割引) |

(備考) ※事業者によって料金体系が異なるため、すべて一般2名で参加の場合の1名あたりの料金で計算した。(税込)

※登山やアウトドア活動ではない一般の歩くツアーの料金例

※昼食、レンタル料等が含まれているものといないものがある。

る資源がいくらでもある。中高年の方の中には日光の自然の熱烈なファンでヘビーリピーターの方も多い。

日光の民間の自然ガイド専門会社が一社のみという状況ではこのPRも限界がある。学校団体に自然ガイドの存在がかなり浸透してきているのは、学校を主に

手掛ける半官半民のガイド事業者が3事業者あることも大きく影響していると思われる。日光という地域が魅力的な自然ガイドツアーエリアであること、そして日光にも自然ガイド事業者があり、自然ガイド事業が行われているということを官民挙げてPRして行く必



写真：日光で行われている氷瀑ガイドツアー

要がある。

4) 自然ガイドの情報が得やすくなっているか？

実際にガイドツアーが魅力的であっても、どんな魅力があるのか、自然ガイドをどこに申し込めば良いのか、と言った具体的なことが分からなければガイドを依頼する行動には結びつかない。個々の事業者はホームページや他の伝達手段でPRに努力しているのだが、ほとんどの人は事業者名が分からないので、「日光・ガイド・自然観察」等のキーワードで検索することになる。しかし希望に合った事業者がうまくヒットするのはかなり難しい。

自然ガイドツアーの先進地である屋久島では、屋久島観光協会がそのホームページの中に「屋久島観光協会登録ガイド一覧」を設けて、ガイドの個人名のほか所属事業者名、連絡先、地区、対象ジャンルが分かるようにしている。屋久島観光協会登録ガイド以外のガイドがリストから抜けているという問題はあるものの、観光協会のサイトに情報があるというのは大変アクセスしやすい。また知床斜里町観光協会では、そのサイトのトップに自然体験のボタンがあり、「知床の自然体験」というページを設けて自然ガイド事業者個々の紹介をし、リンクを張って事業者のサイトに直ちにアクセスできるようにしている。また、知床地区の自然ガイド事業者が設立した「知床ガイド協議会」のサイトにもアクセスできるようになっている。

日光市観光協会のホームページではそのトップページに名所、グルメ、お土産といったボタンは有るが「自然ガイド」のボタンはなく、現在のところここから自然ガイド事業者にアクセスできない状況である。早急に観光協会のホームページに自然ガイドの情報が掲載されるよう努力する必要がある。また、後ののべるように日光自然ガイド事業者の「協議会」を設立し、そこから情報を発信して行くことも必要であろう。

4. いくつかの提起されている課題についての私見

ここでは現所在地元関係者等から提起されている自然ガイド事業の課題について、簡単に私見を述べてみたい。

■日光自然ガイド事業者協議会(仮)の新設について

現在動いているガイド組織である「日光自然ガイド

連絡会」は、有効に機能しているが、この会はガイド個人の集合体であるので、何らかの問題が起こった場合に対外的にガイド総体の意見をまとめるといったことは難しい。また、地区全体としてのガイドツアーのPRなども事業者単位の組織でないが故に難しい。例えば知床ではガイド事業者が「知床ガイド協議会」を作り、観光協会ともタイアップしてガイド事業者のPRを行っているほか、自然に対する基本姿勢やルールの統一を図るなどガイドの質の向上にも努めている。日光でも日光自然ガイド連絡会と並行して自然ガイド事業者の連合体を作り、3. で述べたような様々な努力を実行に移して行く必要がある。

■外国語の自然ガイドの育成について

日光国立公園が国立公園満喫プロジェクトの対象地になり、その中で外国語ガイドの育成が求められている。実際今年の戦場ヶ原では、外国人のハイカーに会わない日の方が少ないといった状況である。現在は地元で外国語の自然ガイドがいないこともあって、ガイド付きの外国人ツアーはほとんど見かけないが、今後は増加する可能性がある。しかし、そもそも日本人による外国語のガイドは日本語のガイドができなければ不可能である。現実的には当面日本語のガイドと外国語のガイドの両方を行うガイド事業者を育成するということになるだろう。しかし日光の実情は、先にのべたようにプロのガイド事業がまだ確立していない段階である。外国語のガイドを論ずる前に日本語のガイド事業を確立する策を講ずることが先決と思われる。

■ガイド登録制度・認定制度の検討について

ガイド事業の先進地でもガイドの力量のばらつきが問題になっている。これは、十分な実力が無い段階でガイドを行っている例があるということである。この解決策の一つとしてガイドの登録や認定制度が導入されている地域もある。しかし、日光の現状はガイド事業者の経営基盤がまだ不安定であり、完全なプロのガイド事業体には至っていないところが多い。このような段階では、ガイドをフルイにかける登録や認定制度のスタートラインにそもそもついていないと言うべきではないだろうか。この問題も先ずガイド事業の経営基盤を確立させることと、ガイド事業者の協議会を立ち上げる等によって事業者による自主的な議論の場をつくるのが先決であろう。